



名 称 / 国 縫 漁 港
所在地 / 長 万 部 町
発注者 / 函 館 土 木 現 業 所
建設年 / 1 9 8 4 年 ~ 1 9 9 4 年

土木遺産の概要

噴火湾は我が国でも有数の漁場であり、奥西部の水産業の振興を図るため、新しい漁業基地となる漁港の整備が必要とされていた。国縫漁港の整備にあたり、この地域が砂浜海岸であり、漂砂や海浜の変形に充分配慮することと、生態系を守ることが求められていた。こうした課題を克服するため、我が国で最初の島式漁港が計画された。国縫漁港は昭和57年10月、第一種漁港として新規指定され、昭和59年度に着工、平成6年3月に完成した。この島式漁港は、我が国の水産業が抱える課題である沿岸漁業の振興と海岸保全による環境保護の両立を図る新しい方式として全国の注目を集めている。また、漁港の漂砂対策の有効な解決策として、多くのデータを提供し続けるものとなっている。